

# 「パルジファルの罫」<sup>わな</sup>

「パルジファルの罫<sup>わな</sup>」とは、イエス・キリストが最後に使ったとされる聖杯<sup>せいはい</sup>を探しに、遠く故郷をはなれ、冒険<sup>ぼうけん</sup>を続けた若くて伝説<sup>でんせつ</sup>の騎士<sup>きし</sup>であるサー・パルジファルの名前<sup>なまえ</sup>にちなんでつけられたものである。

勇気<sup>ゆうき</sup>と純真<sup>じゆんしん</sup>さを併せもっていたパルジファルは、まだ非常に若い時<sup>ひじょう わか とき</sup>に、ある城<sup>しろ</sup>にたどり着いた。

そこで、偶然<sup>ぐうぜん</sup>にも、おごそかな聖杯<sup>せいはい</sup>の儀式<sup>ぎしき</sup>を目撃<sup>もくげき</sup>することとなり、美しい聖杯<sup>うつく せいはい</sup>を受け取ることとなった。あの伝説<sup>でんせつ</sup>の聖杯<sup>せいはい</sup>が自分<sup>じぶん</sup>に与えられたこと<sup>あた</sup>に感激<sup>かんげき</sup>をし、酔い<sup>よ</sup>しれるパルジファルだったが、翌朝<sup>よくあさ</sup>、目覚めると、そこは城<sup>しろ</sup>ではなく、冷たくしめった荒野<sup>つめ こうや</sup>であり、昨日<sup>さくじつ</sup>、見た城<sup>しろ</sup>もあの聖杯<sup>せいはい</sup>も泡<sup>あわ</sup>のように消えていた。

それから、パルジファルは、「もう一度<sup>いちど</sup>、あの聖杯<sup>せいはい</sup>を取り戻す<sup>と もど</sup>ことが、私の目標<sup>わたくし もくひょう</sup>だ」と信じ、その後<sup>ご</sup>、何年<sup>なんねん</sup>もの歳月<sup>さいげつ</sup>をかけて、あの城<sup>しろ</sup>に通ずる道<sup>みち</sup>を探し続けたのである。

そして、苦勞<sup>くろう</sup>のすえ、ようやく城<sup>しろ</sup>に通ずる道<sup>みち</sup>を探し当てた瞬間<sup>しゆんかん</sup>、彼は、ふと立ち止まり、自分自身<sup>じぶんじしん</sup>に、賢明<sup>けんめい</sup>にも、こう問いかけるのである。

「私<sup>わたくし</sup>が、あの聖杯<sup>せいはい</sup>を取り戻す<sup>と もど</sup>ことが、いったい何<sup>なん</sup>のためになるのだろうか。」

この問いに、彼は、目覚めたのであった。

「パルジファルの罌」

とは

イエス・キリストが  
日取後に使ったとされる

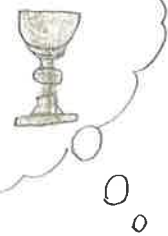
聖王杯



その聖杯を探しに遠く故郷を離れ、  
冒険を続けた若き伝説の騎士、

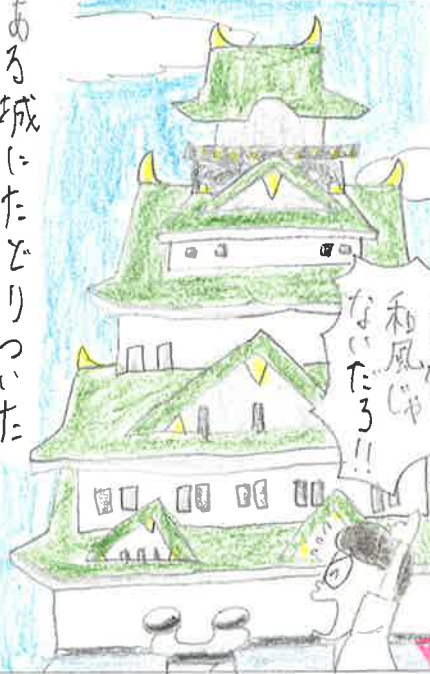


サーパルジファルの名前に  
さなんでつけられたものである。



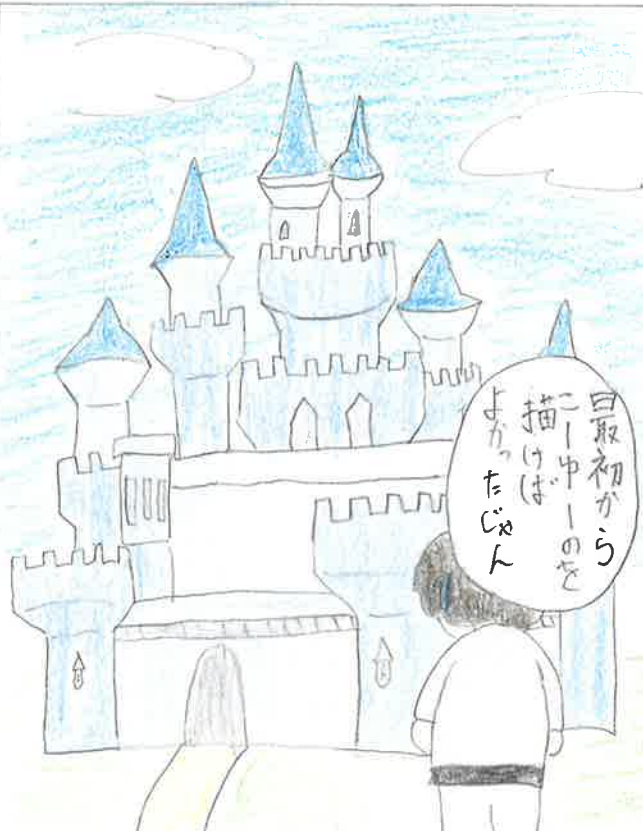
勇気と純真さを併せ持って  
いたパルジファルは、まだ非常に  
若い時、

ある城にたどりついた



こんな  
和風じゃ  
ないたろ!!

ある城にたどりついた。



日取初から  
こーゆーのを  
描けば  
よかったじゃん

そこで偶然にも、  
おごまかな聖杯の儀式を  
目撃する事になり...



美しい聖杯を  
受ける取るこことなる



あの伝説の聖杯が、  
自分に与えられたことに  
感激をし、



酔いしれるパルジナルだったが

翌朝

朝だぞ  
起きろ



朝日

ちがうわ!!  
何がママだ!  
何言ってるんだ!  
オレは!



オレ?  
オレ何  
した人  
だった?  
オレは!

ぐさ...  
パニック  
てきた...



わかったよ  
マ...

もう  
何が何だか...



ん?

そうだ!!  
オレは昨日  
聖杯をもらって

なのに  
なんで...?

聖杯がなくな  
ってる!

そもそも  
城がねえ!!



それから  
パルジアルは、

もう一度、  
あの聖杯を  
取り戻すことが  
私の目標だ

と信じ...

キ

ガッ

何だ  
急に...

「名前は  
私...  
って...」



その後、  
何年もの  
歳月を  
かけて...



あの城に  
通ずる  
道を

探し続けた  
のである。



そして苦勞のすえ、



城に通ずる道を探し当てた。

成長  
しすぎ  
じゃない?

別人  
じゃん...



しかしその瞬間、  
彼は、ふと立ち止まり、

自分自身に、取戻すにも、  
この問いかけるのである。



私が、あの聖杯を  
取り戻す  
ことが、  
いったい  
何のために  
なるのだろうか



この問いに彼は目覚めたのであった。

